

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場理念と年度の職場目標を各フロアに掲示しております。経営理念、職場理念は変わらず、職場目標を年度毎に、管理者が職員間との話し合いを統括して、掲げています。	経営理念、職場理念を基に毎年職場目標を掲げ支援に繋げている。目標は管理者が素案を作り職員の意見を取り入れ決めている。「ご利用者と職員が笑い合える和やかな雰囲気作りを大切に、地域医療との新連携で、更に安心して生活を送ることができる」の今年度の目標の元職員全員が同じ方向性を持ち日々支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、コロナの影響にて、地域の方を招いての交流はできませんでしたが、今年も苑前のご近所の方が、クリスマスに庭をライトアップして、ご利用者を楽しませて下さいました。	コロナ禍にて地域の方々と触れ合う機会を設ける事は難しい状況であり、事業所としても大きなジレンマを感じているところである。コロナ蔓延前には、町内の老人会に参加や事業所主催のほほえみカフェでは元職員がお茶の講師となりお茶会を開き地域の方にも参加頂いたり、ハンドマッサージのボランティアが来られたりと地域と繋がり活動していた。今年度はそのような中でも町内会からは回覧板が回ってきたり、近隣の方が利用者の楽しみとなればと自宅の庭をライトアップするなど、利用者、職員の癒しとなっている。コロナ収束後は以前にも増して地域と交流できる事を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も。地域に発信する機会がありませんでしたが、地域の交番所長にも、運営推進会議のメンバーに加わって頂くようお願い致しました。認知症の高齢者について、参考にして頂けることもあるかと思われます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での会議が、今年度も行えない状況にて、書面にて状況報告を行い、ご意見を伺いました。書面の返信だけでなく、お電話でも、お気軽に問い合わせ頂けるようにし、サービスの向上に活かせるに努めております。	コロナ禍で会議開催は事業所の判断で見送られている。事業所の状況報告は定期的に実施し意見も頂けるように努めている。コロナ蔓延が落ち着いた時点では早急な会議開催に期待したい。会議には区長や家族、市の職員の他交番所長の出席もあり今後も継続を依頼したり、民生委員の参加も依頼していく等多方面からの意見を頂き運営に反映させたいと考えている事業所である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご家族への状況報告とご意見の収集を書面にて行い、その内容を市へ提出致しました。地域からのご意見の収集と説明が、昨年度より不足しているとの市からのご指摘があり、改善内容を報告しております。	市の担当者には定期的に利用者の状況、家族の要望等書面で報告し意見を頂いている。電話やメールでのやり取りの他必要に応じて出向く事もある。入退去状況も市に報告し把握されている等報告、相談実施し意見を頂く等協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束をしないケアに関して、随時、事例を挙げてミーティングを行っております。身体的拘束となる具体的な行為や、もしかしたら身体的拘束になる事についても、考察しています。	年2回会議の中で身体拘束、虐待について研修を実施し、定義は職員全員が理解している。また随時ミーティングでグレーゾーンの事例を上げ、職員の思いがけない行動、言動が不適切な支援となっていないか検討するなど今後の支援に活かしている。施錠はしないを基本とし、夜間の玄関のみとし、出かけた利用には共に出かける対応をしている。ユニット間の行き来も自由で24時間フリーで閉塞感のない空間を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に成り得るグレーゾーンにも目を向け、随時、ミーティングを行い、虐待や虐待に成り得る事のないよう、意識を高め、職員全体で努めております。	身体拘束とともに研修、ミーティング内での検討を行い虐待の定義は職員は理解している。管理者はグレーゾーンを重視し、特に言葉かけ、車いすの位置、利用者のできる力の抑制となるような介助等々、職員が気がついていない部分に目を向け話し合いを重ね適切な支援となるよう努めている。職員のストレスにも配慮し話しやすい、働きやすい職場をめざし活動している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している方が2名入居されており、関係者と共に、ご本人を協力して支援する立場にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族に対し、契約書と重要事項説明書で詳細をお伝えし、同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者のご要望は、できる限り随時対応し、ご家族からのご意見も頂けるように、書面でもお伝えしております。直接でも、ご意見を頂いた場合は、改善できるように努め、書面でもお伝えするようにしております。	受診介助に訪れた時や毎月のたよりに要望記入の欄を設け返信頂けるような取り組み、定期的に電話で家族の意見、要望を聞き取り、要望に対しては職員間で検討し、できる範囲での対応を心掛けている。買い物に出かけたい希望、本人の楽しみである晩酌の継続等々、個別の要望にも対応できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、ケアマネ共に現場を兼務しているため、日常的にスタッフからの意見や相談を受け、共に考え、良い形と一緒に作り上げていけるように努めております。	管理者、ケアマネ共に現場を兼務しており、職員の要望、意見は理解され、多く意見は出されている。意見の内容では関わる職員間で改善策を話し合い早急に取り組み、内容を書面にし業務改善点として職員に伝えている。業務に密接した内容のため現場を知る管理者、ケアマネージャーは職員の意見は大切と考え取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ストレスのない職場や環境作りに取り組み、現場責任者である管理者からの報告から、希望時には社員個々とも面談したり、広く環境の整備に目を向けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度もコロナ禍による研修中止にて、外部研修の機会は不足しております。苑内でのミーティングにて、身近な事例を通じて、現場で考えることから、質の高い取り組みを目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他GHとの通年の交流会や、ミーティングの機会も今年度も自粛しており、電話やメールにて、意見を交換しております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族にご意見を頂き、安心して生活ができるよう支援しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、本人やご家族のご意向を伺いながら、ご家族と共に、ご本人をさりげなく支えていく方針であると説明しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の定期受診対応を原則的にご家族へ依頼しますが、急変時や不都合がある場合はその限りでなく、適宜、苑にて対応したり、連携医やそれ以外の医師とも連携を深め、臨機応変に対応できております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人のご利用者の意向を組み取り、介助者の一方的価値観にとらわれることなく、残存機能を活かす事や自立支援の考え方にて、過介護ではなく、さりげなくも的を得た支援ができるように努めています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の存在がご本人にとって一番大切であり、「第二の家」である当苑で、我々は、ご家族と共にご本人を支えていく姿勢であると、入居時より退去となるまで、一貫してお伝えしております。	利用者の1/3の家族は受診介助を行っている。コロナ蔓延以前はカラオケ、温泉、自宅に外泊に連れて行く家族、依頼あれば何時でも動いてくれるなど協力的な家族は多い。事業所からも毎月普段の生活の一コマを常に撮りためて毎月のたより、報告書と共に写真を多めにし送付している。家族は利用者にとってかけがえのない存在と捉え、家族にしかできない事を大切にしながら支えていく姿勢で支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が続き、馴染みの場所へお連れする機会も少ないですが、感染予防に留意しながら、馴染みの美容室へお連れし、変わらぬ関係性の支援にも努めています。	子供、孫、いとこ、友人、知人の訪問は多くあったが、コロナ禍で面会できない状況である。昔の勤め先の旧友からの電話の取次ぎの支援、自宅近くのラーメン屋に行きたい希望には沿えなかったが、近くを車で通ったり、道の駅に買い物に出かけるなど、馴染みの場所、人との繋がりを大切に考え支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や特徴を把握し、和やかな雰囲気の中で、無理せず過ごせるよう、環境設定や関わりにも心掛けております。ご利用者同士の自然な形での仲の良さが見られています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となられても、これまでの関係性に変化が生じることはなく、変わらず、できる限りで対応致しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の自宅訪問にてご本人やご家族からの思いや意向についても伺うので、入居後にも意向に添えるように本人本位に検討しながら支援に取り組んでおります。	入居前の訪問時に利用者面接シートを基に、本人、家族から思いや意向を詳細に確認している。入居後の日々の生活から見えてくる思いや、表情、行動、価値観を汲み取り、目線を合わせて寄り添う気持で対応している。気付きや新しい情報は生活記録用紙に記録し、全職員で共有して、その人らしい生活が送れるように支援している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や入居後の聞き取りから、ご本人の意向を受け取り、できる限りでその方らしい生活ができるような支援に努めています。	入居前の面談時に確認した情報を基に、生活歴や馴染みの暮らし方、趣味、出来る事などを把握している。また前任のケアマネージャーや事業所からも情報を提供してもらい、環境の変化の重要性を受け入れ、生活が安定するまで家族から協力を得て、入居後の生活もその人らしい生活リズムで暮らせるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者が、心身共に健やかで、苑での暮らしが「第二の家」と思える程に、居心地の良い、安心できる生活の場になるよう、努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は日々の暮らしを通じて得られた情報に基づき、居室担当者が中心となって介護支援専門員と共に、現状に即した介護計画を作成しています。	本人、家族の意向を確認して、日々の生活から見えてくる必要な支援をケアマネージャーと居室担当者が中心となり、全職員からも意見や提案をもらい介護計画を作成している。毎月居室担当者がモニタリングを実施している。年1回は介護計画を見直しているが、状態の変化があればその都度見直し、利用者主体の介護計画となるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者へのケア内容は、個別記録に残す他、ケア内容の提案は、休憩室に挙げて、職員が意見を出しやすいようにして、みんなで考え、共有し、改善していくように努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれない、ニーズへの対応力を自負しておりますが、コロナ禍においては、積極的なニーズの引き出しとアプローチが不足している現状です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前のように歩いて近くのケーキを食べに行ったりはできませんが、穏やかな日差しの日には、苑の庭で体操やお茶を飲んだりしていると、ご近所の方たちが声をかけて下さいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医や連携医以外の対応となっても、ご家族のご協力もお願いしながら、苑の看護師が、医師との連携の主体となり、迅速で適切に対応するように努めております。	本人、家族が希望する医療機関を尊重している。家族の受診支援を大切にしているが、受診困難な場合は連携医への受診介助も可能である。週3回看護師が体調管理や薬管理、医師との情報交換も書面や口頭で伝達され、看護師と職員は連携している。急変時においても看護師が医師と連携を図り、迅速で適切な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員が連携し、日々、情報を共有し合い、些細な状態変化も看護師へ相談し、適宜受診するなど、適切な判断にて、ご利用者の体調管理に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、医療機関やご家族と退院の日時等の連絡を行い、状態の報告を受け、早期の退院に繋がるように努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、入居時にご説明し、週末期には再度、ご家族と話し合い、看護師を中心に医療機関と連携を図り、ご家族の協力も得て、看取りケアを実施しています。	入居契約時に「重度化や終末期の対応」について、事業所として出来る事、出来ないことの説明をして同意を得ている。終末期には再度家族と話し合いの場を設け、看護師を中心に医療機関と連携を図り、看取りケアの方針は整っている。終末期の対応について全職員は看護師から指導を受けており、何時でも対応出来るように修得している。家族の思いを受け入れて、本人の状態に応じた病院への推進支援も対応している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、AEDが設置され、消防職員より実践講習を受け、実践力を身につけています。各フロアに救急シートを置き、緊急時に慌てず対応できる体制を作っております。	急変や事故発生時のマニュアルや救急シートも整備されており、目のつく場所に設置して、緊急時に慌てず対応出来る体制を作っている。AEDの実践講習も受け実践力を身につけている。看護師からも一人ひとりの観察ポイント教えてもらい注意喚起している。ユニット同士の緊急時の連携も整い利用者の安全を確保している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練では、人員が不足の時間を想定して行うことで連携力を養っています。迅速に避難誘導ができるように、消防署員立ち合いのもと、指導を仰いで実践しています。	年2回昼夜を想定した避難訓練を消防署立ち会いの下、実施している。マニュアルやフローチャートの作成、避難場所確認は全職員に周知徹底を図っている。地域住民の参加は現在は自粛されているが、村上市洪水、土砂災害、津波等の情報方法を無線で警告され協力体制は整っている。非常食品や備蓄品、防災バックと利用者情報も整備され、ユニット同士の連携体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分や自分の大切な家族がこのケアをされているとしたら」と考えてから支援してほしいと伝えております。ミーティングの事例においても、家族や自分だったらどう思うか、照らし合わせて考える機会を持ちながら取り組んでいます。	利用者一人ひとりに合った言葉かけに配慮し、距離感も大切に、プライバシーを損ねない対応を心掛けている。日常のケアの中で不適切な言動や対応が生じた場合は注意し合ったり、ミーティングの事例において「家族や自分だったら」どう思い感じるかを振り返り、ケアに取り組んでいる。日々の記録や利用者情報管理も責任ある取り扱いを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の観察から、動作や仕草など、伝えられないことがあったとしても、考察し、その方が安心できる配慮を行い、さりげない支援を心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的な介助ではなく、人と人との折り合いや失礼のない適切な距離感と、それでいて家族のような温もりとやさしさを与えることができるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ定期的に行かれる方もおられ、身なりや気持ちも若々しくいられるように支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、苑の専門調理師によるメニューで、旬の食材を生かした調理を提供しています。多数決にて希望されたお寿司では、地元で評判の美味しい店に発注し、召し上がって頂くなど、食への楽しみをいつも心掛けております。	利用者個々の能力を活かしながら職員と共に食事作りを行なっている。献立や調理に関しては専門の調理師が利用者の好みや栄養バランス、季節の食材を活かし食事を提供している。利用者と職員は同じテーブルで楽しく食事をしているが、コロナ感染防止のため自粛している。外食や行事食、村上名産のお酒やお寿司を発注したりと楽しい食事会を企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録、栄養状態を把握し、嗜好や禁止食材、食事形態を職員間で共有しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着しております。その方の習慣やタイミングでも、適宜行っております。声掛け、セッティングにて自力で行えるよう支援しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として、利用者の自立度に合わせた介助を行い、生体動作を通じての身体機能、下肢筋力の維持に目を向け、自立支援、残存機能の維持ができるように努めております。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレで排泄できる支援をしている。利用者の身体能力や習慣を理解し、さりげない声かけや羞恥心にも配慮して誘導している。適切な支援が出来るように全職員は統一した介護方法を修得している。リハビリパンツやパット類は安易に使用せず使用根拠を検討して、家族にも確認の上使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールができない方に関して、看護師より医師へ相談してもらい、整腸剤や下剤を処方して頂き、使用に関して、情報を共有しながら、なるべくストレスなくスムーズな通じになるように、取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	普通浴槽とリフト浴槽があり、状態に応じて、安心して入浴が楽しめるように支援しております。浴室内の事故防止や、安全で気持ち良く入浴が楽しめるように努め、入浴中のI対1のコミュニケーションも大切にしております。	週2回、午前中の中の入浴を基本としている。希望があれば時間帯の変更は柔軟に対応している。身体機能に合った個浴や機械浴が整備され、安心、安全に入浴できるようになっている。浴室内は適切な温度調節、床暖房、福祉用具も整っている。ゆず湯や菖蒲湯など季節の変わり湯を楽しみ、気持ち良く、ゆっくりと入浴できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリのある生活の提供だけでなく、その方の生活習慣や体調にも考慮しながら、自宅のように楽な気持ちで生活して頂けるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は、苑の看護師が主体となり、個々の内服状況や内服薬の説明においても、わかりやすく可視化し、職員間で共有できるように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	安心して、自宅にいるような気持ちで過ごして頂くことと、生活歴や趣味嗜好に応じて、苑でも入居前と同じく、楽しんでもらえるよう個々の支援にも取り組んでおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	従来、家族や地域の方々にも協力して頂き、温泉、花見、ぶどう狩り、新発田イオンでの買い物など、多くの外出をしてきました。コロナ禍で自粛しての期間が長くなりましたが、徐々に、可能な限り、楽しみな外出支援をしていきたいと思っております。	年間行事計画があり、温泉、花見、村上大祭、季節の行事やドライブ等外出の機会を企画している。コロナ禍で自粛していた時期もあったが徐々に外出する機会を設けている。天気の良い日はホームの周辺を散歩したり、日向ぼっこしたりと外の空気にふれる時間を大切にしている。利用者の希望があれば法人のバスで買い物に行くことも可能である。日々の行事や外出時など、思い出の写真を撮ってホールに飾ったり、月1回の利用広報に載せ家族に配布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は、苑で管理しており、ご希望に応じて買い物を代行したり、近くのドラッグストアであれば、一緒に出掛けて買い物することも再開しております。毎週月曜日は、移動販売車が苑を訪れ、利用者で賑わいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から本人に電話がきたり、ご本人がご家族へ連絡したいと申される場合等、気軽にやり取りができるようにお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内は吹き抜けの天井で明るく、共有スペースの中にも個々にいられる空間もあり、其々が気兼ねなく落ち着いて過ごせるように、テーブル配置も工夫しております。何気なく飾られている季節ごとの花も、ご利用やに喜ばれ、玄関の装飾にも、季節感を取り入れています。	共有空間は明るく、吹き抜けの天井で大きなプロペラが回っていてホール内の空気の循環になっている。リビング内は広く、畳のスペースやソファが置かれ利用者が好きな場所で寛げる空間となっている。玄関やリビングには季節の花を取り入れたり、利用者と共に創った季節の作品を飾ったりと季節を感じている。室内の温度調整も管理され、快適な環境で安心できる生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用が気兼ねなく、ご自宅のように落ち着いて楽に過ごせるように考慮し、自然と集う仲間たちは賑やかに、ゆっくり静かに新聞を読む方は、落ち着いたスペースでと其々に適した場所作りをしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みのある物や、娘、孫の写真、お気に入りの歌手やスポーツ選手のポスターが貼られていたり、自由で其々が居心地良く過ごせるようになっています。	使い慣れた馴染みの物の持ち込みは自由である。本人、家族の思いを大切に居室の環境を整え、その人らしい居室づくりとなっている。状態に応じて部屋の環境作りを見直し、安心して生活が送れるように支援している。部屋の掃除は個々の出来る能力を活かしながら、掃除専門の方と共に掃除を行ない、自立した生活が送れるよう工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や生活歴を考慮し、現在の状況で、安全に無理なく生活できて、かつできる部分が長くできる限り続くように見極め、さりげなくも、しっかりと支援できるように努めています。		